

松島町地域農業推進協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米の平成27年産米の生産目標配分面積の割合は63.59%で、転作作物に占める大豆、飼料用米の面積が多く、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいる。また、平成25年産からは国の方針により備蓄米への取り組みが増加している。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中で、他の作物の作付に転換を推進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少がみられるとともに、不作付地の拡大が進んでいる。こうした中、水稲作付面積の維持が課題となっている。

そのほか、大豆については、排水不良、連作障害等により単収の低下を招いており、是正が必要になっている。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底によって米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。また、地元ホテル・飲食店のニーズに対応した環境保全米の生産と安定取引の推進を図る。

(2) 非主食用米

主食用の需要は、今後、更に減少が見込まれることから、主食用米に替わる水田フル活用作物として、農業者が取り組みやすい米対応の転作作物である備蓄米、加工用米、飼料用米の生産維持、拡大を強力的に推進する。

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転作作物の中心作物に位置づける。また、飼料用米の生産拡大にあたっては、産地交付金を活用した多収性専用品種の導入や直播栽培等生産コスト低減の取組みの推進を図るとともに担い手に支援することで集積を図り、生産性を向上させる。

イ WCS用稲

産地交付金を活用し担い手に支援することで地域の実需者との契約に基づき現行の栽培面積を維持する。

ウ 加工用米

主食用米にかわる作目として、産地交付金を活用し、JA出荷を中心に実需者と複数年契約により、安定した生産を図る。

エ 備蓄米

水田の水張り面積の維持・拡大のために有効な生産調整の手段として安定的に活用できるように、作付面積の維持・確保を図る。

(3) 大豆、飼料作物

大豆については、集団転作による生産調整の基幹作物として取り組まれており、現行の作付面積を維持する。また、産地交付金を活用し、大豆300A技術に取り組み、安定生産と品質向上を図り、所得の確保を図る。

飼料作物については、ほとんどが肉用牛繁殖農家が粗飼料として活用しており、自給率向上を図るため、今後も推進する。

(4) そば、なたね

大豆または新規需要米等の作付が困難な地域において、需要に応じた生産振興を行う。

(5) 野菜

収益性の高い農業を目指し、水田を活用した加工・業務用野菜など土地利用型園芸を推進し、農家所得の向上を図る。

(6) 不作付地の解消

食料自給率及び自給力の向上に向けた水田のフル活用に取り組み、水田の不作付面積の減少と農業者の所得確保を図るため、調整水田や不作付地に飼料用米や備蓄米等の米対応の転作作物を中心に、大豆、飼料作物等の作付拡大を推進する。

平成25年度の不作付地（約100ha）について、畑作物の大豆の作付面積を堅持しながら、米の生産数量目標の減少分を米対応の転作作物へ転換することで水稲作付面積を維持・拡大し、解消を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成25年度の作付面積 (ha)	平成27年度の作付予定面積 (ha)	平成28年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	565.9	535.0	530.0
飼料用米	34.5	50.0	53.0
WCS用稲	6.7	6.8	8.0
加工用米	0.5	0.7	1.5
備蓄米	27.6	43.0	45.0
大豆	52.8	55.9	56.0
飼料作物	5.2	4.6	5.0
そば	0.0	0.0	0.0
その他地域振興作物	46.4	39.7	41.2
野菜	33.6	29.6	31.0
果樹	3.3	3.2	3.2
花き	0.2	0.2	0.2
景観形成作物	1.5	1.5	1.5
地力増進作物	1.9	0.0	0.0
その他	5.9	5.2	5.3

※平成28年度の主食用米については、平成27/28年需要見通し770万トンと過去5年の需要実績で平均8万トン減少していることから、平成27年産生産数量目標から1%減とした。

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 27 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)
1	大豆	大豆 300A 技術 による単収・品質 向上の取組	イ	取組面積	50.1ha	55.2ha	55.2ha

※「分類」欄については、要綱（別紙 16）の 2（5）のア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。
（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入して下さい。）

ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組

イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組

ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり